



## 「禍（わざわい）転じて福となす」

「〇〇を我慢」と、誰もが多くの制約の中で生活をしていることと思います。しかし、発想を変えて、コロナ禍だからこそ、収束後の未来の自分のために、本を読んでパワー温存の機会としませんか。世界がどんな状況にも関わらず、本を開けば、本の世界が無限に広がっています。

そこで、今回は、原点回帰ということで日本をテーマに本を集めました。私たちの日本を舞台にした物語や日本の魅力を紹介している本を読んで、パワー温存の一助となれば幸いです。

### 『県庁おもてなし課』

有川浩／著  
角川書店 913.6

『新幹線はない。地下鉄はない。～金もない。…けど、光はある!』  
実在する高知県庁「おもてなし課」をモデルに、県庁職員がふるさとに元気を取り戻すため、大奮闘！  
改めて自分の住むところを見直すと、新しい発見があるかもしれません。読めば高知に行きたくなる！（担当T）

### 『知里幸恵物語』

金治直美／著  
PHP 研究所 Y289

独自の文化や言葉をもつアイヌの家に生まれた幸恵。明治時代、アイヌの人々は日本風の生活やしきたりを強制された。幸恵も学校で、不当な差別を受けたが、言語学者の金田一京介との出会いにより、アイヌの物語の本をつくることに…。  
困難な時代の中、アイヌの物語を後世に伝えることに生涯を捧げた女性の伝記。（担当I）

### 『もう誘拐なんてしない』

東川篤哉／著  
文藝春秋 Y913

「だったら俺がおまえを誘拐してやろうか？」ひょんなことからヤクザの組長の娘、絵里香を“狂言誘拐”することになった翔太郎。下関を舞台に巻き起こったこの誘拐騒動は、やがて想定外の事件へと発展し…！？  
（担当Z）



### 『厳選!デザインマンホール大図鑑』

カラーマンホール研究会／編  
グラフィック社 518.2

普段は目に留めることなどないであろうマンホールの蓋。悔ることなかれ！今や、その土地を物語る重要な存在です。  
川口のものも特集ページで紹介されています。周りに気を付けて下を向いて歩いてみてください。（担当T）

### 『かわいい方言手帖』

ふるさとナマリ研究会／編  
河出書房新社 Y818

「あばな」「おみちよー」「せば」この3つの言葉（方言）の意味、分かりますか？なんと、全部同じ意味なんです！かわいい方言から思わず口に出してみたくなるような方言まで、多種多様な言葉が載っています。この方言手帖で、あんたも方言マスターになるまいけ！（担当Z）

### 『鴨川ホルモー』

万城目学／著  
KADOKAWA 913.6

×「ホルモン」  
○「ホルモー」  
舞台は京都。2年に1度、4つの大学の選ばれし学生たちが、ホルモーという試合を戦う。  
ホルモーとは？読めばわかるが、決して、電車や朝の読書などでは読んではいけない。意味不明な面白さが君を襲うだろう……。 （担当T）

### 『めざせ、和牛日本一!』

堀米薫／著  
くもん出版 Y645

5年に1度開催される「全国和牛コンテスト」。そこでは、手塩をかけて育てられた牛の形や能力が競われます。高校生部門の1位を目指して、日々努力する宮城県柴田農林高校の生徒を取材したドキュメンタリー。  
今年はどうし年！お肉や牛乳に感謝をして、牛についても詳しくなりましょう。(担当I)

### 『ユタとふしぎな仲間たち』

三浦哲郎／著  
毎日新聞社 913.6

父親を亡くし、東京から東北の湯の花村へ引っ越してきた勇太は、村にも学校にもなじめずにいた。村のみんなが「ユタ」と呼ぶのもなんだか気にいらぬ。  
ある日、母の働く古い旅館に「座敷わらし」が出るらしいと聞く。会ってみたいと思った勇太は、満月の夜、一人で旅館に泊まることにする。真夜中、そこで出会ったのは……？(担当N)

### 『襷を、君に。』

蓮見恭子／著  
光文社 913.6

襷をつなぐ競技といえば、「駅伝」。登場するのは、陸上に高校生活を捧げる女の子たち……と…？  
「陸上部には入れんよ。」  
倉本歩は駅伝をするために入学した高校で、衝撃の事実を突きつけられる。果たして、入部はできるのか。  
読後にはさわやかな福岡の風が吹き抜けます。(担当N)

### 『のぼうの城』

和田竜／著  
小学館 913.6

時を遡ること、数百年。  
これは天下統一目前の豊臣秀吉陣営と埼玉の地方大名のお話。  
「でくのぼう」だからのぼう様。民からそう呼ばれていたのは、忍城(現埼玉県行田市)の成田長親。彼は秀吉の家臣石田三成が率いる大軍に対し、突如「戦う」と宣言。圧倒的不利な状況に置かれた「のぼう様」に策はあるのか…。「さきたま古墳公園」に行けばこの戦いの名残が見られるとか。(担当N)

### 『よみがえった奇跡の紅型』

中川なをみ／著 あすなろ書房 Y753

紅型(びんがた)とは沖縄の伝統的な染物。戦争などにより、一時は伝統が途絶えそうになったが、人々の熱意により、産業は復活していく。  
研究者や職人など、紅型に関わる3人にスポットをあてて、その生涯を描いた作品。鮮やかな色彩やデザイン、過酷な歴史の中を生きる人々…いろいろな沖縄を感じることができる1冊です。(担当I)

### 『ビブリア古書堂の事件手帖 葉子さんと奇妙な客人たち』

三上延／著  
アスキー・メディアワークス Y913

鎌倉の片隅にひっそりと佇む一軒の古本屋「ビブリア古書堂」。店主である篠川葉子は、人並み外れた古書の知識を持ち、持ち込まれる古本の謎や秘密を全て解き明かしてしまう。  
そんな店主のもとで働くことになった大輔は、自らの知られざる真実にも触れることになる。(担当Z)



図書館では、コロナウイルス感染拡大防止のため、一部サービスを制限して開館をしています。詳しい情報はホームページ「図書館からのお知らせ」をご確認ください。  
自分と周りの人の健康を第一に考えた上で、ぜひ図書館に来て読書を楽しんでください。



## 編集後記

- (担当I) 牛丼屋で働いていた時、従業員の肉を盛る速さと量の正確さを競う大会がありました。世の中には色々な大会がありますね。  
(担当T) 雨の日、マンホールの上を原付バイクで走ったら転んだことがあります。それから、自然とマンホールに目がいきます。  
(担当Z) 中学1年から乗っていた自転車とお別れをすることに。学生時代から今日まで支えてくれたことに深く感謝です。  
(担当N) 『ユタとふしぎな仲間たち』はミュージカル化されています。どんな演出なのかを自分なりに想像して読むのも楽しいですよ。